

NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

60

お金の研究

敬学会賞第十九回入選作品

五年五組

丹野文雄



意匠登録 No.151492

A361-130

目次

1ページ	理 由	14ページ	江戸時代のお金
2ページ	お金のあかわれはど	15ページ	お金のあかわれはど
3ページ	お金のたんじ	16ページ	お金のあかわれはど
4ページ	お金のあかわれはど	17ページ	銀行のはたき
5ページ	お金の印刷	18ページ	ゆうびん局のゆう
6ページ	お金のあかわれはど	20ページ	お金のあかわれはど
7ページ	お金のあかわれはど	21ページ	奈良時代の物価
8ページ	世界のあかわれはど	22ページ	お金のあかわれはど
9ページ	奈良平安時代のお金	23ページ	日本銀行をでたお金は
10ページ	奈良平安時代のお金	24ページ	銀行について
11ページ	かまくら室町時代のお金	25ページ	まとめ
12ページ	かまくら室町時代のお金		
13ページ	糸巻豊時代のお金		

(1) (理由)

(1)
ちいさいときは お金などにかんしんはもたなかったけれどこのごろお金がなによりもいふやうな人になあとおもった。なにをするにもお金がなければいけなないのでお金の研究をしました。

(2)

(お金のあらわれるまで)

昔はお金という物はなく物物交換をしてあった。たとえばけだものの皮とか家畜の布、貝、稻などのねうちをきめてそれを金のやくめをしました。

物物交換の方法

もちはこびがやかいたしねうちがうまくきめられない。馬一匹を買うのに米を何俵ももっていかなければ買えないようにおふづんだし。そのときのねだんも人によってきめかたがちがう。

もちはこびに便利はこんでいるうちにこわれたり形や質がかわってしまつてはまづいいことになりません。

世の中が進歩するにつれて金属になりました。金属でもなんでもいいという事でいいけなかつた。金や銀の貴金属でないといけなかつた。

金属だとねうちはたかいしもちはこびがかんたんこわれたりくさったりしない。

いまから1000年以上も前の日本は米と布を交換のなかたちにつかっていた。米は主食、布は衣料です。どっちもくらしには第一にいいようなものです。その時代は禾兎金をおさめ、お後人などの糸合料などは米と布をつかいました。

紀元四五〇年ころ車草から輸入されました。銀がが かいとしてつかわれました。わが国では貨ていをつくるようになったのは七〇八年(和銅元年)からのちのことです。この時始めて和銅開元という銀貨と金貨がつくられ平安時代の中ごろまで十二種の金貨がつくられた。

(3)

〔金貨貨幣〕

ねだんのたん位になるところ
日本ではほうりつによれば金七五のミリグラム(円)
ということになっていました。

この
このほうりつは戦争前にきめられたものでした。
これはむづかしくいうと本位貨幣といいます。
戦争前は本位貨幣の金貨がつかわれていた。
昭和六年のすえから金貨はつかわれないようになった。

〔信甲紙幣〕

おさつですからそのおさつにたとへ百円と書いてあつてもそのおさつの紙はけつして百円のねうちのあるものではない

信甲紙幣には政府が発行する政府紙幣と日本銀行が発行する日本銀行券とがある
政府とか日本銀行というようにたしかな所で発行している紙幣ですから百円が百円が千円が千円のねうちのない紙幣であってもほんとうはそれだけのねうちのあるものとしてみんな安心してつかえるようになっている。

日銀券は戦争前には銀行へもっていけば五円の紙幣は五円十円のは十円金貨ととりかえてくれたものです。しかしいまは銀行はいつでも金貨とは取りかえてくれません。日銀券として十銭五銭の二種類と政府紙幣として五十銭がありましたがいはいになりました。

(4)

補助貨として政府が発行している十円五円の二種類があります。これは黄銅でつくられている黄は銀貨白銅貨そののちアルミニウム ニツアルでつくられた事もあります。

補助貨にはその外に一円五十銭十銭五銭一銭の五種類ありましたがいまでは銭の單位がなくなって補助貨はつかえないようになった。

〔お札のできるまで〕

お札の紙はノートや本をつくる洋紙とはちがいます。

お札の原料 ミツマタという木の皮
ミツマタは高さ1mから2mぐらいて枝がまたのようになりわかれていたためにこんな名がつけられました。

産地は岡山県島根愛媛高知徳島静岡の農家で造っています。

お札のしごとをしている大蔵省印刷ではこのミツマタ農家から買いあつめて自分の工場でお札の紙をつくります。

紙をつくる工場は神奈川県小田原市さかわ東京都北区王子岡山県西大寺市にあります。

造り方

大きな丸いたまのようなかまにミツマタの皮とソーダ灰や水などを一しょに入れて七時間浸します。こうしてせんいだけになったものをつぎのぎかめにに入れてせんいをこまかくときほぐします。

(5)

こうしてこまかくなったせんいは水にまじって目の
こまかい金あみの上にのせられ金あみがはしる
あいたにせんいとせんいとがからみ あって紙になります。
お札の中に百円 千円のようにすかしのはいつたの
があります。すかしはこの紙をつくる時にとくべつのしか
けによってもようがでるようになっていきます。次はお札
の印刷をします。工場はたきの川 小田原 静岡
に根の四つの工業でつくります。たきの川が
ばん大きい工場です。

(五) お札の印刷

① 図案をきめる

② 図案がきまったら原稿のちょうこくする
原稿というのははかねいたにもようをほりこんだ
もの

造り局

お金を造る所は大阪にあります。

東京 広島 熊本に支局があり

大阪は古く明治四年(1871年)にはじめました。

貸付いは一円 五円 十円 五十円 百円

青銅貨の品位は銅が千分の九百五十 あえんが
千分の三十から四十す。千分の十から二十のわりあい

重さは四・五g

つくりかた

どろどろにとかし形にながしこす、この土金か
ける時の温度は千二百五十から千三百。でぎ上った

(6)

お金は日本銀行はいる

貝のお金 (六)

子安貝はたから貝の一種です貝の貨幣がずいぶん
後の世までつかわれていたことがわかります。今でも
南洋の島々にすむひらけない人種のあいだでこの
貝のお金がつかわれているところがあります。このたか
ら貝のほかには玉でほううつくしいつやのある石ウヅラ
の歯赤貝の首かざり島の羽もガラス玉 べっこうな
どがはじめはかざりに後には原始貨幣として
つかわれていました。原始貨幣のたから貝や石の貨幣
にはまったく同じものはありませんまたこれを二つにわけ
ることもできません 米や塩はいくつにもわけられますが
よい品とわるい品とがあつて同じものとはいえませんが

きんぎょのお金

しかし金属だと銅は銅、金銀は銀で同じ性質です
大きいのも小さいのもつくることかできます。また米や塩と
ちがつて長くとつてあけます。こつちうわけから金属を型に人れ
て貨幣をつくることになりました。これを鑄造貨幣または鑄
貨といひます。

中国のはじめのころの鑄造貨幣はすきや小刀のかたちをして
いました。ギリシャにあったスパルタという国はやりのかた
ちをしたお金です。ギリシャや小アジア イタリアなどでは
ウヅのかたちをあらわしていました。世界でいちばん早く
貨幣を鑄造したのは紀元前七世紀ごろの小アジアま
り今のトルコの大部分でエレクトロンという金と銀とが自然
に合金されたものをつかいました。この鑄造の方法がギリシャに
つたわりそれまでは文字などをはんできざみこんでいたのが
そのかわりにうちはな彫刻をするようになりしました。ローマでも小さな

(7) お金がいるようになったので紀元前四五一年に銅貨が紀元前二六八年に銀貨が鑄造されました。金はぼうやかたまりになっていてそのたびにはかりどはかってつかわれていました。貨幣として鑄造されたのは紀元前二〇七年のことでした。わが国でいっこのころから金属を貨幣につかったものはつきりわかりません。中国から輸入したあなまき金や銀のたまりをつかったことがあるようです。貨幣を鑄造したのは和銅元年(七〇八年)でこの年にまじつまり今の関東地方から銅が出たので鑄造した。銭司という役所をこしらえて「和銅開珍」という銅と銀の銭をつくりました。銅のお金はそれから役二百三十類年のあいだに十二種類が鑄造されました。これを本朝十二銭といいいます。

金の貨幣は天平宝字四年(七六〇年)に「開基勝宝」というのがはじめて鑄造されました。金と銀は少なくお寺やそのほかのかざりものに多くつかわれていたので貨幣には銅銭が多くつかわれていました。

そのころ銭は一文を単位として千文を一貫としました。この計算法はずっと後の世まであこなわれました。七〇年から一〇〇年までつづいた平安朝のすえから中国の金を輸入してさかんにつかいました。輸入金にもいろいろの種類がありました。永樂銭これは「永樂通宝」の文字がはいっています。品質がよいので多くつかわれました。ところが算の悪い銭が輸入されたり民間でかたに鑄造した私鑄銭の悪いのがはこびこりだりました。このようにしてよいお金と悪いお金がまじってつかわれるようになりましたので人びとはそれを区別してうけとったりわたりするの

苦労しました。徳川時代になってから寛永十三年(1636年)に「寛永通宝」というあなまき金を鑄造しました。そのごに宝永通宝とか天保通宝などという銭も出ました。寛永通宝はわが国で鑄造した銭のなかで貨幣の整理に役だったものといわれます。

そのほか金や銀の貨幣もいろいろと鑄造されましたが徳川時代になってからがもつともさかんになり統一がはてきました。貞享六年(1689年)に徳川家康は京都の伏見に銀座をひいて一分判金、慶長大判、小判、慶長銀などを鑄造しました。

(9) (世界の主な国々のお金の基準)

国名	通貨単位	ドル換算	円換算
アルゼンチン	ペソ	5.56	20.02
イギリス	ポンド	280.00	1,008.00
イタリア	リラ	0.16	0.58
インド	ルピー	21.00	75.60
インドネシア	ルピア	8.71	31.36
エジプト	ポンド	287.16	1,030.33
オーストリア	シリング	3.85	13.85
オランダ	ギルダー	26.32	94.73
カナダ	ドル	10.21	364.36
韓国	ウォン	0.21	0.72
豪州	ポンド	224.00	806.40
スイス	フラン	23.31	83.91
スペイン	ペセタ	2.57	92.52
西ドイツ	ドイツマルク	23.81	85.71
ソ連	ルーブル	25.00	90.00
台湾	元	6.39	23.00
タイ	バット	4.67	16.81
チリ	ペソ	0.91	3.27
デンマーク	クローネ	14.48	52.12
トルコ	リラ	35.71	128.57
日本	円	0.28	
ノルウェー	クローネ	14.00	50.40
ビルマ	チャット	21.00	75.60
フィリピン	ペソ	50.00	180.00
ブラジル	クルゼイロ	5.41	19.45
フランス	フラン	0.286	1.30
ベルギー	フラン	2.00	7.20
ポルトガル	エスクード	3.45	12.42
香港	ドル	17.50	63.00
メキシコ	ペソ		

(10) (奈良 平安時代のお金) (九)



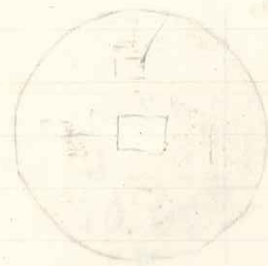
開通元寶

中国の唐時代の
お金で和同開珎
のお手本になったか
です



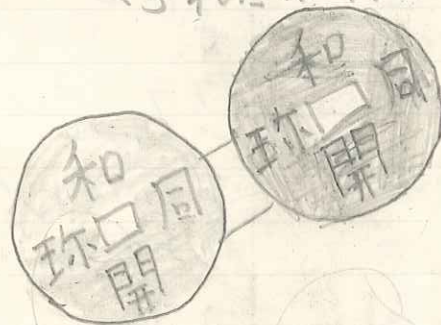
和同開珎

和同元年(708年)
開通元寶をもとに
はじめてつくられたか
ついで



和同開珎

和同元年(708年)開通
元寶をもとに
はじめてつくられたか
ついで



和同開珎の金銭型

これをみがき上げて
金に仕上げます

(11)



延喜通宝



貞観永宝



長生大宝



寛平大宝



饒益神宝



承和昌宝



神功開宝



和同開珎



富寿神宝

(12)



隆平永宝



萬年通宝

(13)

(鎌倉室町時代のお金)



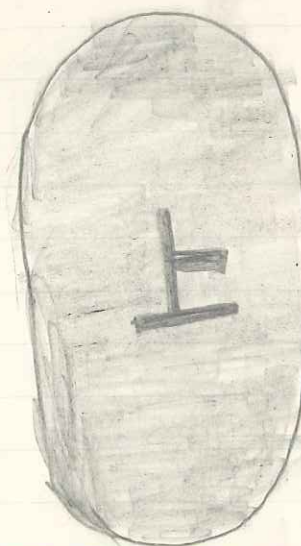
嘉定通宝



永樂通宝

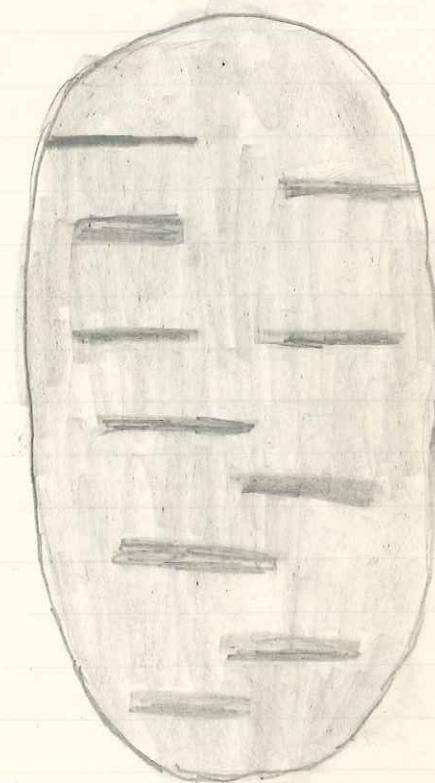


洪武通宝



虫至藻金

実物大



銀丁銀

(14)

〔織豊時代のお金〕



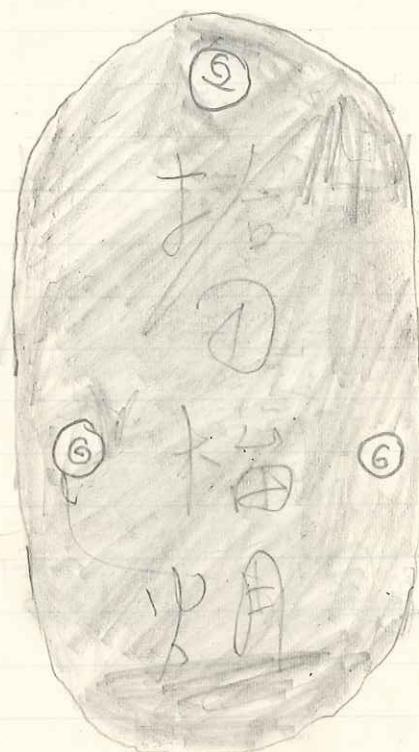
天正通宝



文禄通宝



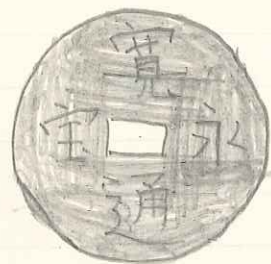
大間五分金



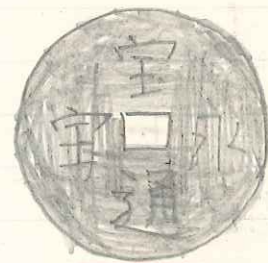
天正長大判

(15)

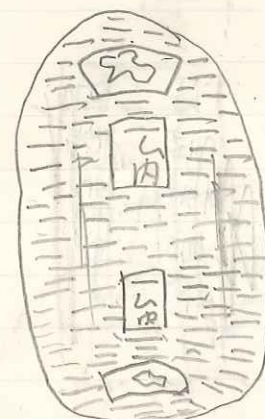
〔江戸時代のお金〕



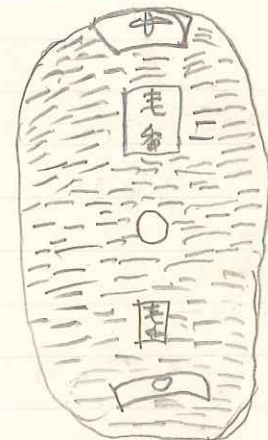
寛永通宝



寛永通宝



元禄小判



元禄小判

(17)



```
graph TD; A[日本銀行 政策委員会] --> B[大蔵大臣]; B <--> C[意見を出す]; C --> D[日本銀行]; D --> E[地方の銀行]; F[三井物産] --> B; G[日本銀行 代理店] --> D;
```

日本銀行 政策委員会

大蔵大臣

意見を出す

日本銀行

地方の銀行

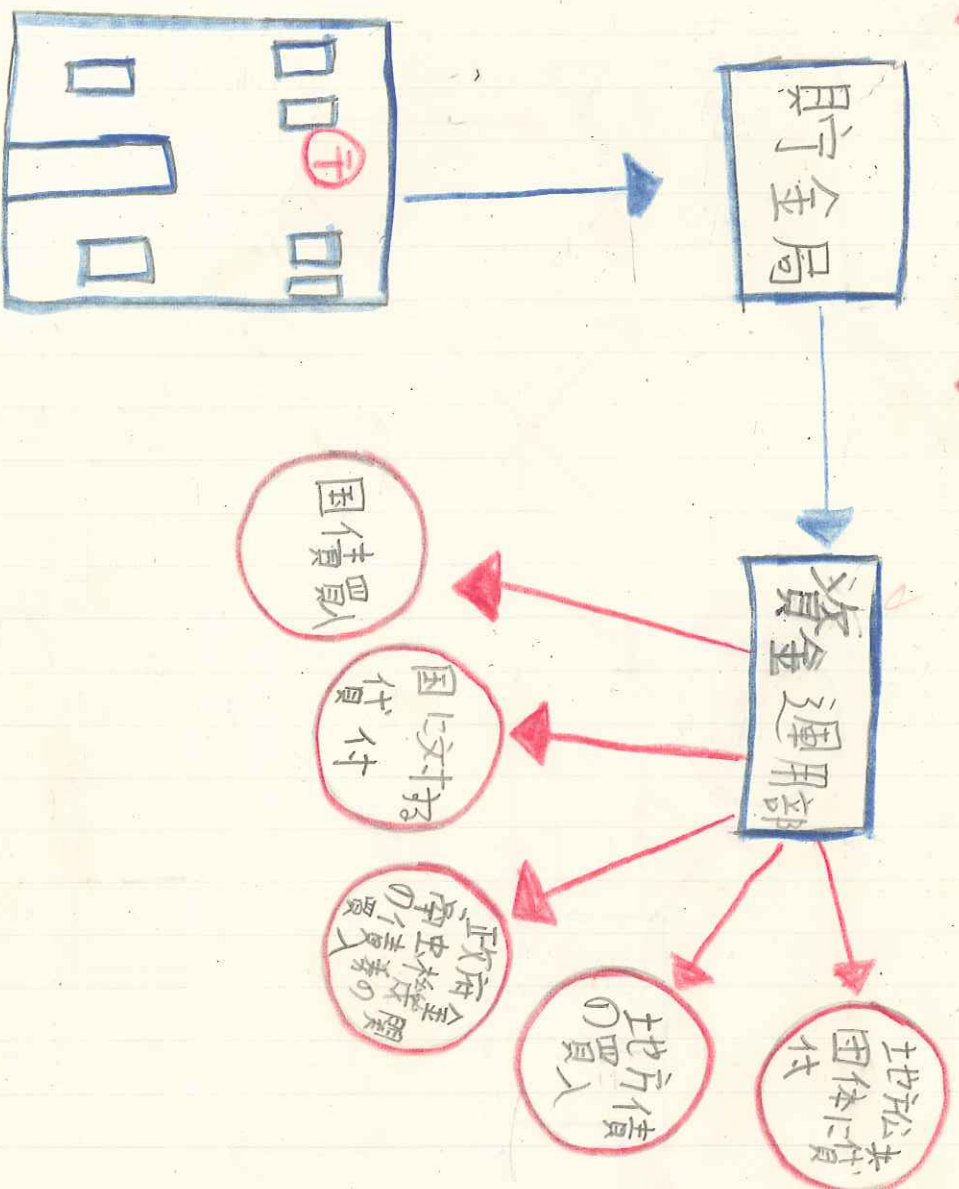
三井物産

日本銀行 代理店

	期間	年利	日歩	十万円の子
普通預金			銭 0.70	1,555円
通知預金			0.80	2,920
定期預金	3ヵ月	4.3 ¹ / ₂	1.17	1,750
"	6ヵ月	5.5	1.50	2,750
"	1年	6.0	1.64	6,000

(61)

【お金のまわりのこと】



(81)

(20)

(20) 奈良時代の物価

すすり = 昔のお金で30文

かて = { 上等 (30文)
下等 (1文) }

白米1升 = 昔のお金11文

たんもの = 昔のお金2,000文

馬 = 昔のお金で12000文

うす = 昔のお金で200文

かま = 昔のお金で120文

「おれのきるまて」

1 原板周刻

おれの模様の
おもなところは凹
版で刷ります。その
の版を周刻します



2 模様検査

印刷のすんだ
ものは大キリの
てまを重なる
まを直します



封筒作業

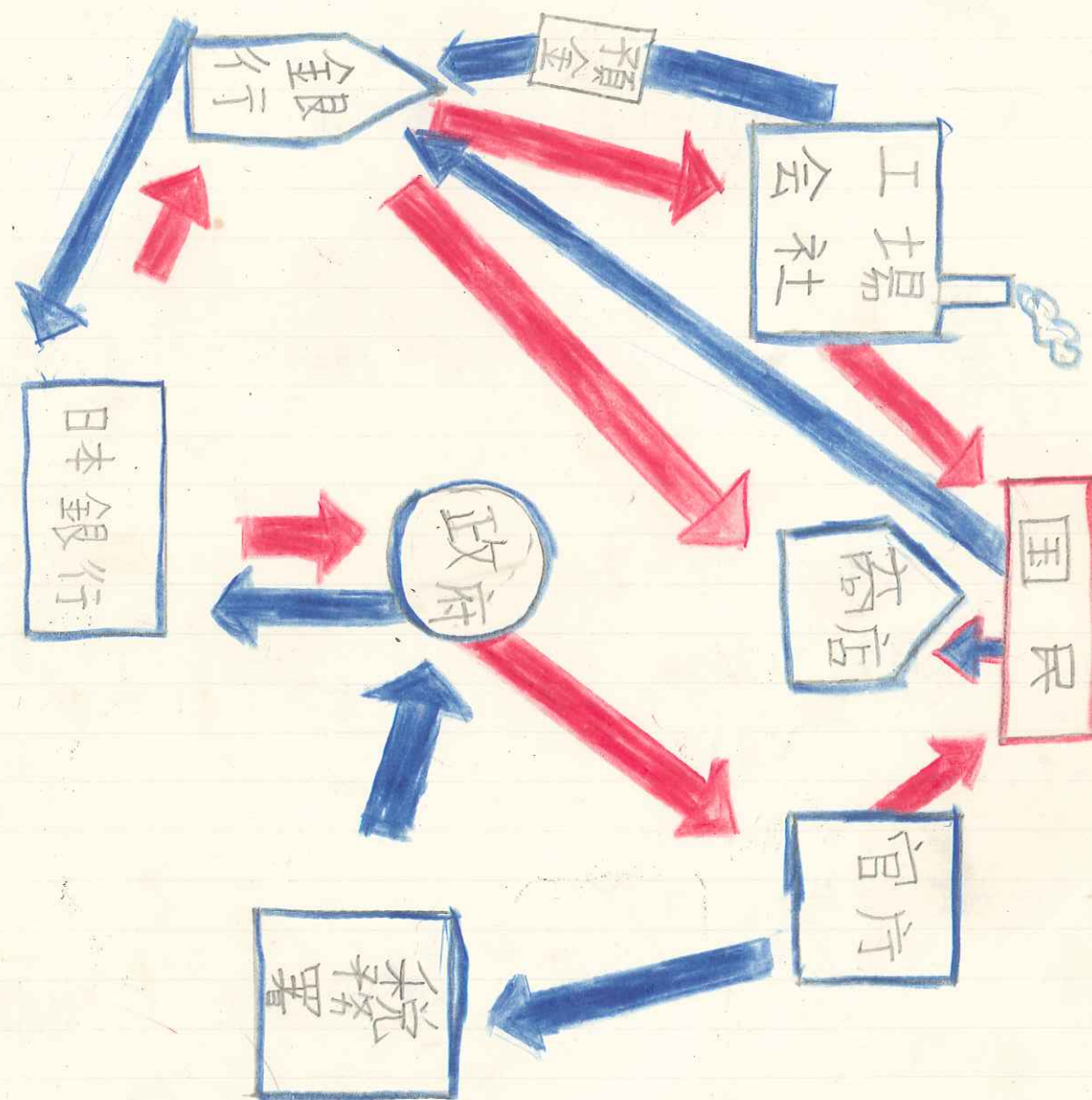
重量別数
金客を記した
包紙に1,000枚
目に印刷し
の封印を押し
ま。11月1日
本銀行に納入
分を取引に
つかわれてい

(22)

(お金のうち)

お米 1升 昭和10年 22銭 ↓ 25年 86円80銭 ↓ 現在 110円	小麦粉 1貫匁 10年 60銭 ↓ 25年 200円 ↓ 現在 400円	じゃがいも 1貫匁 10年 35銭 ↓ 25年 90円 ↓ 現在 200円
牛肉 100匁 10年 1円40銭 ↓ 25年 150円 ↓ 現在 300円	砂糖 100匁 10年 15銭 ↓ 25年 50円 ↓ 現在 65円	味噌 1貫匁 10年 80銭 ↓ 25年 300円 ↓ 現在 400円
せん茶 100匁 10年 1円60銭 ↓ 25年 200円 ↓ 現在 350円	木炭 1俵 10年 1円55銭 ↓ 25年 350円 ↓ 現在 550円	ぬいせん 1反 10年 6円 ↓ 25年 2000円 ↓ 現在 4000円

(23)



日本銀行は昭和10年1月1日現在

(24) 銀行について

日本銀行は私たち個人や会社、商人はちよくせつな
かんけいもないのです。

いっは人の銀行や政府といろいろの取引をする仕事と
(政府の銀行)ともいう日本銀行の事を(日銀)ともゆう

銀行はげんざい90ぐかいある

千代田銀行 富士銀行、第一銀行、住友銀行、
三和銀行の銀行がゆうめいです。

〔特殊銀行〕

(日本工業銀行)

大きなむぎょうに お金をかすとき普通の銀行では
とても かしきれないときかす銀行

(日本電力業銀行)

かんきんともよばれて宝くじはっこうしている銀行
今は普通の銀行と同じ

(25)

〔保険会社〕

(火災保険)

保険にはいってる家が火事にあたりした時にもがえる
お金

(生命保険)

保険にはいってる人が死んだ時にのこってる人にもがえる
お金

(海上保険)

船で荷物をはこぶにあいこ安全にはこてるように
かける保険

(農林中央金庫)

農業協同組合のあつまったお金をよ金として、あづか
ったり 政府から金をあづかたり さいけん、をはっこうして
お金をあめたりして 農業協同組合にかしたす

(政府きんゆうきかん)

民からの金ゆうきかんでなかなかまうかないお金の
かしかりは政府がじぶんでのりたしてとりあつかう

(26)

〈ゆうじん貯金 かんい保険〉

あまった金は大きく省てまとめている このお金は
政府がはこうする債券をかい入れたり政府に
かしたりするだけでつかいみちが かまられている。

〈こくみんきんゆう こうこ〉

ふつらの銀行からお金がかかりられない いったんの人
のために昭和二十四年に つけられました。ふつ
の人が小さな店をはじめたいとか これまでの店をひ
ろげたいという はあいに かす金

〈住宅 きんゆう 公こ〉

自分のかで家をたてたいと考へている人たちのためにひつ
ようなお金をかす 昭和二十五年につつた。このようなお
金は 政府がだす

〈日本 かいほ 銀行〉

昭和二十六年五月にできた 日本のけいさつをたて
なおし産業をさかんにするための お金をかすのがしごと
とてもたくさんのお金がかひつう
ふつらの銀行ではとてい それだけのお金をかせま
せん。ここでは かす。

(27)

〈日本 輸出入 銀行〉

昭和二十二年二月から工場 のせついや汽船、車両
やきかいなどを 外国に輸出入するのにひつようなけいさ
つを、買ったり製造するための お金をかすのが そのしごと
です。

〈中小 きんゆう かん〉

小さい工場や商人などの事を 中小き業者という

〈信用 組合〉

市町 村にすんでいる工場主や商人がもとで
をだしあつてつくる。もとを出した 組合員をあい
てに金をあづかったり金をかしたりする。

〈おご 銀行〉

五十人ぐらいの人が一糸且になって、たとへば
まい月一かい三百円 千円とのかい金をもちよりあ
互のあいだでくじひをして あたふたに お金を
川原にかす商人はとてよるこんで利用する

(28)

(農林金ゆうきかん)

おひやくしょうさんをあいてにする

(農業協同組合)

おひやくしょうさんがもとでを出し合ってつくった組合。ひりょうをまとめてかったりお金をかしたりお金をあがったりする

(29) (まとめ)

(わからなかったこと)

お金は、いっころ日本にできたのか。おれはなんの紙か。お金のないときはなにをしていたか。

(わかったこと)

お金は奈良時代いからあるんだなあということがわかりました。おれはミツマタというものでつくられるということがわかりました。お金のないときはぶつぶつつかんをしてもものともめをとりにきたということがわかった。

(反省)

もっとはやくから、くわしくしらべたかったとくにじつばつをもっとあつめたかった。じつばつをさがすのにくろうした。いいでんきょうになった。

(せわになった本) 図書官の本

(せわになった人) お母さん